# 植物遺伝資源の保全及び取得のための拠出金のうち、国際農業研究機関における遺伝資源活用研究推進事業【継続】

（農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ、農林水産技術会議事務局国際研究官）

## 事業概要・目的

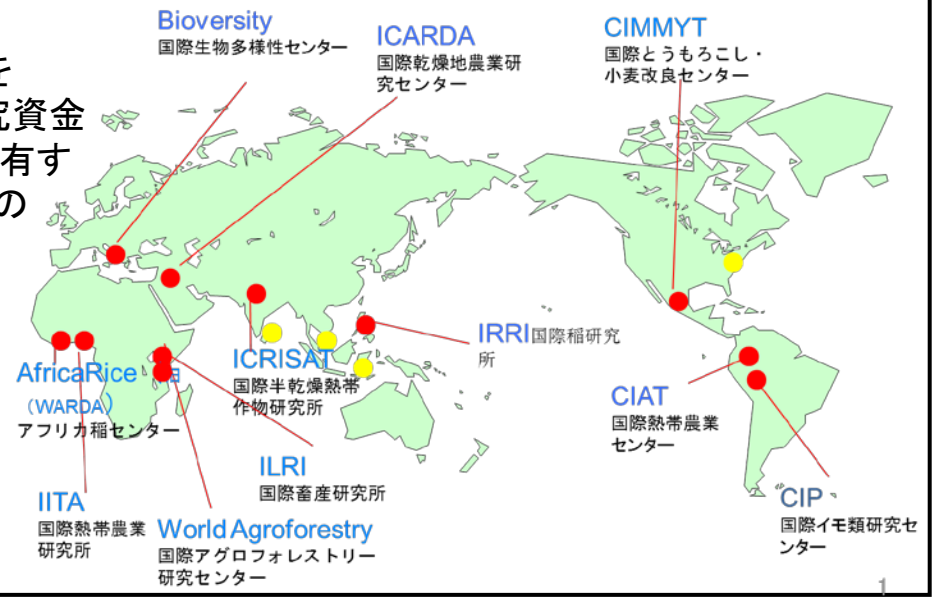
○グローバル作物多様性基金（GCDT）を通じ国際農業研究協議グループ（CGIAR）のジーンバンク事業を支援することでITPGRの本来の目標である、多数国間の制度による遺伝資源の円滑な運用を達成。

○作物の育種・研究に必要な植物遺伝資源を大きく国外に依存している我が国の遺伝資源活用の基盤を強化。

## 事業イメージ・具体例

○CGIARのジーンバンクは、ITPGRの登録遺伝資源の6割に及ぶ、約70万点の遺伝資源を提供しており、世界の食料安全保障に貢献。

○CGIARのジーンバンクを運営するGCDTへの研究資金拠出により、CGIARの保有する有用遺伝資源の活用のための研究を更に推進。




図：●CGIARジーンバンク（CGIARの11の研究所に併設。）（参考●その他のCGIAR研究所）

## 資金の流れ

国 → 拠出金 → グローバル作物多様性基金（GCDT）

日本（１／１９ヶ国）

## 期待される効果

○国際的な遺伝資源の供給基盤の強化により、世界各地の気候変動等に対応できる多様な新品種の作出が促進。

○ITPGRの「多数国間の制度」、世界の食料安全保障に貢献。